

CHECK IT OUT



キリスト教を覗いて見よう

4 BIBLE STUDIES FOR BEGINNERS

使徒の働き Acts 17:22-32

ローマ人への手紙 Romans 1:18-2:5

ローマ人への手紙 Romans 3:20-26

ヨハネの福音書 John 4:43-54; 20:24-31

「神」について

「神」と聞くとまず、あなたは何を連想しますか？あなたの持っている「神」のイメージはどのようなものでしょう？日本にお寺や神社がいたるところにあり、大勢の人が訪れます。これから学ぶ聖書箇所は、パウロという人がギリシャ、アテネのアレオパゴスという所で、人々に語ったものです。パウロはアテネ人たちに「神」がどんな存在であるかを語っています。聖書の言う「神」とは、一体どのような方なのでしょう？今から一緒に探っていきましょう。

* 「神」についてのあなた（または一般）のイメージ／考えはどんなものですか。

<使徒 17 : 22-31 を読んでください>

A) 神はどんな方か？

1) 神はどこにおられ、どんなところに住まいなのでしょう？

(24、27)

2) 神のなさったことを書き出して見ましょう。(24、25、26、30、31)

B) 神と人間の関係は？

* 「人」の存在について考えたことがありますか。人間とはどんな存在？と聞かれて何を連想しますか。

1) 人はどのような存在であると書かれていますか？(25、26、27、28)

2) 神は人に、何を求めておられ、何を求めているのでしょうか？ (25、27、29、30)

3) また、それはなぜですか？ (24、25、27、31)

4) 神は特定の人々に対して語っておられるのでしょうか。
どこからそのことがわかりますか。

C) あなたと神との関係は？

1) あなたが一番大切にしたいこと、また、あなたにとって最も必要なことは何ですか。それはなぜだと思いますか。

あなたが今、一番信頼しているものは何ですか。それはなぜですか。

2) あなたは今まで神を求めたりしたことがあると思いますか？
それはなぜだと思いますか？

3) 神を求める者に対して、神はどのような方でしょうか (27)

<はじめに>

Bible study 1 では「神」について学びました。聖書の言う「神」は人間と近い関係をもっています。神はすべての創造者であり、主権者でありながら、「ひとりひとりから遠く離れてはおられません。」神は人間と親しく交わることが出来るように望んでいます。今回の聖書箇所では別な視点から、神と人間の関係が示されています。人間の本当の姿も描かれています。

<導入質問>

この世の問題にはどんなことがありますか。

これらの問題の原因は何だと思いますか。

聖書によると、これらの問題の原因は何でしょうか？今から一緒に探ってみましょう。

<ローマ人への手紙 1:18-2:5 を読んでください>

『文脈の説明』

ローマ人への手紙ではパウロは「福音」について説明をしました。福音のうちには神の義と神の怒りが啓示されています。神の義を説明する前にパウロは神の怒りを説明しました。

『語句説明』

| | | |
|----------|-----------|---------------------------|
| 1 章 17 節 | 「福音」 | イエス・キリストについてのメッセージ |
| | 「神の義」 | 神と正しい良い関係を持つこと |
| 1 章 18 節 | 「不義」 | 異教の道德の間違い (26-32) |
| | 「真理」 | 神についてのこと(19-20,25) |
| | 「不敬虔」 | 偶像礼拝の間違い(21-25) |
| | 「神の怒り」 | 人間の悪に対して、 それを喜ばれない神の裁き |
| | 「啓示されている」 | 現されている／示されている |
| 2 章 5 節 | 「悔い改める」 | 神に立ち返る、180°変化 |

A. 人間について (1:18-32)

1. 人は神について何を知っていますか。(19-20,32)

2. 人間(彼ら)は神(または、神の真理)に対してどう反応しますか?(18,21-23,25,28)

『説明』

神に創造された人間は被造物を見ると神の存在を知っているはずで
す。(良心や心も神の存在を証明しています。)しかし、神を知っ
ていながら、人間はこの真理をはばんでいます。すなわち、人間は
神がいないかのように、神を無視し、神から離れて生活するよう
になりました。この「反逆」な態度は「罪」の基本的な意味です。

B. 罪の結果

3. あえて神を知ろうとせず、自分の欲望のままに生きようとする
人に対して、神はどのようにされるでしょうか。(18,24,26,28)

4. 質問(3)の結果、どのようになったでしょうか。(24,26-27,28-31)

5. 29—31 節には人間の姿が描かれています。これは自分自身、周
囲、現代の社会に当てはまるところがあるでしょうか?

『説明』

私たちが罪に落ちた結果、私たちは、みな自己中心的な生き方しか出来なくなってしまいました。自分自身こそ何よりも大切なものとなってしまい、他人のことは考えられなくなってしまいました。心の欲、思い、体にも影響が与えられています。

C. 神の裁きについて (1:32—2:5)

6. 罪人に対する神の定めは何でしょうか？

7. 神は何を基準にして、人々を裁くのでしょうか？

8. 神の裁きは神の本質について何を示しているのでしょうか？
(親が子をしかることを注目しながら)

『説明』

義である神は人間の罪をいつまでも黙認されません。神は最後の日にすべての人（自分が罪が無いと自慢している人も含めて）を裁きます。神の正しい裁きは真理に基づいており、悔い改めない人は永遠の死に当たります。実は、神の裁きは神の愛を現すものです。神は裁きの宣言を通して、人が悔い改め、神の元に戻るように願っています。

『まとめ』

人間は神の前にどのような状態で立っているのでしょうか？

『おわりに』

この世を見ると様々な問題があります。個人の問題、人間関係の問題、社会の問題、世界の問題があります。聖書によると、それぞれの問題の原因は、すべての人間が神と無関心に生きているからです。神は、このよう神がいないように生きようとする人々を自分勝手な思いや欲や振るまいに引き渡されました。この結果、現実の世界になっています。最後の日に神はすべての人を正しく裁きます。悔い改めない人は永遠の死に当たります。結局、人間はすべて、罪の中、神の裁きの下にいます。人間と神との関係は良くない状態です。ひどい状態です。しかし、神との断絶の状態にとどまる必要はないのです。神は罪の問題の解決を与えてくださいました。

『はじめに』

<聖書と学び方の説明>

聖書というのは神の言葉ですが、人間によって普通の言葉で書かれたものですから、他の文章と同じように学びます。聖書箇所をじっくり読んで、よく考えることは望ましいです。学ぶプロセスを励ますためにディスカッションのための質問がありますが、自由に意見を言い出したり、自分の質問をしたりしても構いません。

<ローマ人への手紙の背景>

ローマ人への手紙はパウロという一世紀のクリスチャンが書かれた手紙です。ユダヤ教に育てられたパウロはよみがえられたイエス・キリストと出会って、クリスチャンになって、様々な国で神について教えました。手紙のテーマは「神の義」です。パウロは人間と神との関係の現情を説明してから、神とのいい関係をどのように結ぶか、どのように成長するか説明しました。

<語句説明>

「律法」

神の道德、モーセの十戒にまとめられている。

(出エジプト記 20 章)

作り主である方が、人の幸福のために基準を設けられたもの。

「恵み」

代価を払わないでもらうもの。

「あがない」

代価を支払って買い戻すこと。

「なだめの供え物」

神の怒りをなだめ、神とのやわらぎをもたらす供え物。

「信じる」

信頼して自分を任せること。

<文脈>

ユダヤ人は歴史的に神との特別な関係がありました。それで、ユダヤ人は他の民族よりも、自分たちは優れていると思っていました。

(3:1-2)

パウロは、すべての人が(ユダヤ人を含まれて)罪の下にあるので、全世界が神のさばきに服すると強調しました(3:9,19)

『導入質問』

神がいるとすれば、人間はどのようにしたら、その神といい関係が結ぶことが出来るでしょうか。（例えば、多くの宗教では義と認められるために行い（苦行）があります。どんなものがありますか）

<ローマ人への手紙 3:20-26 を読んでください>

<律法（ルール）について>

1. あなたにとって、格好いい人はどんなものでしょうか。

ユダヤ人にとって、格好いい人は律法を行う人でした。でも、律法の足らないところがありました。

それはどんなことですか。（20 節）

（どうして「律法を行うことによっては、、、神の前に義と求められない」ですか。）

2. 律法の役目は何ですか。（20 節）

（律法をどのようにして、罪の意識を生じるでしょうか。）

<罪（人間の姿）について>

（人間と神との関係はうまくいっていない。どうしてと思いますか。）

23 節によると、「すべての人は罪を犯した」と書いてありますが、いったい、「罪」とは何でしょうか。調べましょう。

3:9-18 を読んでください。（これは旧約聖書の教えのまとめです）

3. この箇所はだれについて書かれたのでしょうか。

4. 罪人の姿はどのようなものだと言っているのでしょうか。

5. 罪の影響はどこに見られますか。

6. 罪の結果は何ですか。（+3:23,25,6:23）

（参考箇所：1:18,21-23,25,28a）

<神の義（神との関係）について>

聖書でいう神の義とは神と正しい関係に招き入れられることです。

7. 聖書で示された、神の義と認められる、「律法とは別」の方法は何ですか。（21-22）

神とのいい関係になるために、神がしてくださったことと、人間が応答することがあります。（24-26）

8. 神は人間に何をしてくださったのでしょうか（キリストの働き）

9. 義と認められるために人間は何をすればいいのでしょうか。

10. 義と認められるのはユダヤ人だけですか。

<まとめ>

この聖研で教えられたこと、感じたことを自由に話し合ってみましょう。

自分について

神について

キリストについて

自分の言葉で、神とのいい関係を結ぶためにどうしたらいいのか、説明して見てください。

キリスト教の特徴は人格的な関係です。神は私たちに関係を結ぶためにコミュニケーションをしてくださいました。すなわち、聖書を通して、御自身を紹介をしてくださいました。その「自己紹介」の中心はイエス・キリストで、福音書に記録されています。神との人格的な関係がリアルにするために、イエスキリストを信じる必要があります。Bible Study 4 では「信じる」意味を学びます。

1. 普段の生活でも「信じる」という言葉はよく使われています。下の幾つかの例から「信じる」ということの意味を考えてみましょう。

下の文書を内容が詳しく分かるように言い替えてみましょう。

私は阪急電車を信じています。

先生を信じています。

家内を信じています。

正露丸を信じています。

運転の腕を信じています。

あなたが大学に合格すると信じています。

手術をする医者をして信じています。

幽霊を信じています。

かずら橋を信じています。

道案内を信じています。

さくら銀行を信じています。

通信販売を信じています。

お父さんを信じています。

2. 「信じる」とはどういうことか、聖書の以下の箇所から考えてみましょう。

ヨハネの福音書 4:43-54

1. 王室の役人は何を信じましたか？（50節）
（信仰の対象は何でしたか？）

2. 王室の役人はどうして信じられましたか？
（信仰の根拠は何でしたか？）

3. 実最適に王室の役人の信仰はどのように現されましたか？
（信仰の実行は何でしたか？）

ヨハネの福音書 20:24-31

4. トマスは最初に信じませんでした。何を信じませんでしたか？
どうして信じませんでしたか？

5. どうして信じるようになりましたか？（信仰の根拠は何でしたか？）

6. トマスは何を信じましたか？（信仰の対象は何でしたか？）

7. トマスの信仰はどのように現されましたか？（信仰の実行は何でしたか？）

8. イエスは信じることについて何を言いましたか？

9. ヨハネの福音書「これらのこと」は何のために書かれましたか？ (31 節)

10. 信じる結果は何ですか？ (31 節)

3. まとめと分かち合い

この二つの箇所から「信じる」ということの定義を書いてください。

「イエス・キリストを信じる」という告白は自分にとってどういう意味でしょうか？

なぜ信じているのか？

なぜ信じることが出来ないのか？

信じることと生活はどういう関係があるのか？

ノート

司会者のため

CHECK IT OUT

この聖研は夏期学校で使ったことがある聖研の手引きのまとめです。福音の紹介になります。神について、罪について、十字架について、信仰についての学びです。質問形式になっています。Bible Study 2と3は難しいかもしれませんが、説明も書いてあります。求道者だけでなく、クリスチャンにとってもいい勉強になります。

コメント

Bible Study 1 (使徒17章)

聖書の神を紹介します。「神」だけを学ぶことは不十分です。なぜなら、聖書の神は人間と関係を持つものだからです。聖書の神は創造者ですから、神について学ぶ時、神と人間との関係の学びが含まれています。使徒17章ではそのことが明らかです。創造された者である私たちは神と関係があります。その関係について考え始めます。

Bible Study 2 (ローマ1.18-2.5)

神との関係を考えると罪という問題に触れればなりません。神との関係と罪と罪の結果は深い関係があります。この箇所ではそれは明らかです。性的な罪がでていますが、罪の本質である真理をはばむことと神を神として認めないことが強調されています。性と関係する罪は例の一つだけです。説明文書を参考にしてください。

Bible Study 3 (ローマ3.20-26)

この箇所では罪に対する神の解決が書かれています。それは神の一方的な愛(恵)によるものです。キリスト・イエスによるあがないのです。それを学ぶ前に、間違った解決(ルールを守ること)と罪の問題を学びます。

ローマ書全体は福音の紹介です。意味深い議論が書かれています。準備のためにローマ書の流れを確認してください。(付録を参考にしてください)

Bible Study 4 (ヨハネ4.43-54 ; 20.24-31)

福音に対するレスポンスは信じることです(マルコ1.15)。信仰は神がしてくださったこと(神の救いのプレゼント)に対する応答です(エペソ2.8-9)。

学びの目的: 「信じる」という応答を促すことを励ます

重要なポイント：

- (i) 信じる対象 (何を信じるか?)
- (ii) 信じられる根拠 (なぜ信じられるのか?)
- (iii) 信頼の意味 (trust/rely)
- (iv) 実行すること

クリスチャンとは

クリスチャンはイエス・キリストを信じています。特に、イエスが私のために死んでくださって、よみがえってくださったことを信じています。根拠は聖書に書かれた真理、特に、イエスの人格と業です。信仰はイエスにすべてを任せるという意味です。信仰の実行は祈りによって始められ、信仰生活（祈り、御言葉の学び、教会生活など）によって続けられるのです。

司会者の役割：御言葉のスポンサー

神様と人間の関わり手段は御言葉によるのです。聖霊の働きによって、聖書の言葉を読んで、イエス・キリストを信じることによって父なる神と人格的な交わり関係が与えられます。御言葉の導きによって、（聴き従うことによって）イエス様のかたちに変えられ成長され、御心が果たされます。グループ聖研は、力ある御言葉を働かせる場です。グループ・リーダーはこの働きのスポンサーです。グループの中で御言葉が中心となり、御言葉に基づいた分かち合いが行われ、生活に適用し、互いに励し合うことが出来るように指導します。

付録：ローマ3.20-26の文脈

1-3章の流れ：

神の義が啓示されています (1.17)

神の怒り (1.18) - 罪 - ユダヤ人の誇り - 神の義 (3.21)

3.9-31の論理：

質問：ユダヤ人が異邦人にまさっているでしょうか。 (3.9a)

答え：いいえ、「すべての人が罪の下にある」 (3.9b)

証拠 旧約聖書の教え (3.10-18)

(「律法の下にある人々 (ユダヤ人)」を含まれて) (3.19)

結論：「律を行うことによっては、だれひとり神の前に義と認められない」 (3.20)

「律法とは別に、神の義が示されました」 (3.21)

= 「イエス・キリストを信じる信仰による神の義」

(3.22)

その説明：罪に対して (3.23)

キリストの働き

(i) 「あがない」 (24節) 代価を支払って買い戻す
(背景：奴隷の市場)

(ii) 「なだめの備え物」 (25節) 神の怒りをなだめ、
神とのやわらぎをもたらす備え物
(背景：旧約のいけにえのささげもの)

(iii) 「義とお認めになる」 (26節) 正しいとする、
義とする
(背景：裁判官)

残った質問と答え Q 「誇りはどこにあるのでしょうか」

A 「取り除かれました」 (27)

この理由 (28)

Q 「神はユダヤ人だけの神でしょうか」

A 「異邦人にとっても神です」 (29)

この理由 (30)

Q 律法をどうしますか。

A 「確立する」 (31)

ノート